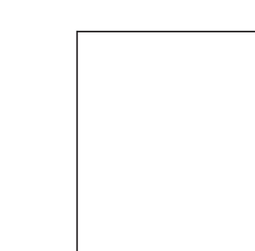
写真をまもるために。

1. 作業に必要なもの・場所

・カッター（できれば刃の大きなものが色々と便利）・はさみ
・洗面器やバケツ、プラスチックのそこそこ大きな容器
・やわらかめの筆やハケ、あればピンセット
・マスク・ビニール手袋（使い捨て）・ポリ袋・ゴミ袋
・洗濯ばさみなど（百均の仕切り板とかも）
・写真を吊るす紐（ビニール紐やタコ糸、できればこよりのあるロープになっているビニール紐）
・新聞紙
・キッチンペーパーなど（洗車用のふきあげクロスが便利、百均にあります）
・エタノール（必要に応じて、80%にする）
・乾燥時に分類の目印になる紙（ふせん紙でも可）
・ペン類（写真に書かないように気を付けましょう）

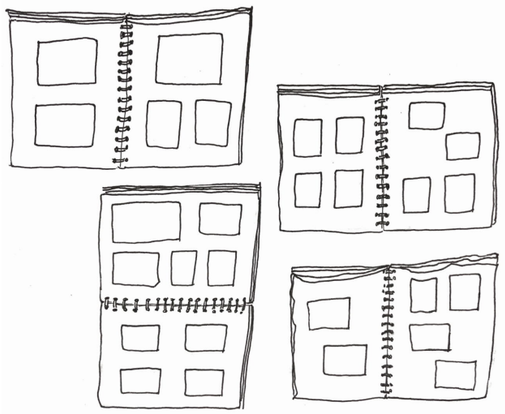
・水を確保して流せる場所（洗い／すすぎが別にできるとベストですが、1つでもよい）
・写真を乾かす場所（一定の広さが必要です）



・カメラ（スマホでも可）
・メモ帳など

2. とりあえず乾燥を

1) 写真表面が溶けます、かびます。



プラスチックアルバムは表面がぜラチンで、水を吸って溶けます。さらに時間が経つと緑や赤・黄色のカビが生えます。

ゼラチンの写真も長時間水に漬かるとインクが流れるので（特に染料インク）、できるだけ早い処置を。

フィルムはプリントより水を帯びても持つので（条件にもよる、古いものは厳しい）、後回し。

2) なにはともあれ乾燥を。

プリント単体は紐で吊るとよい場所を取りません。百均で売っている仕切り板も便利。アルバムはひろげて。洗濯ばさみでページの間をひろげると便利です。シートがかかっている場合はがします。

風で飛ばされれば、扇風機も。乾きにくい場合はアルバムごとカッターやハサミ、ドライバーなどでバラします。

持ち主がわかる場合には許可を。戦前のアルバムはそれ自体価値があるので、できれば解体せずにまるごと乾燥を。

＃枚数が多いときちょっとしてもゼラチンの間を開けてひろげて分類を。

余裕があればアルバムをページ単位で写真撮影。

3. 洗います。

1) 乾いた頃合いをみて写真を水洗。

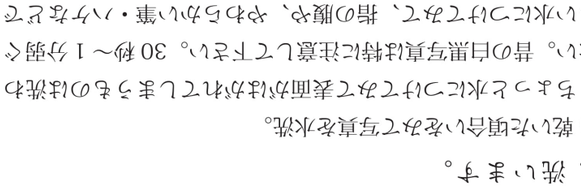
ちょっと水につけてみて表面がはがれてしまうものは洗わない。昔の白黒写真は特に注意して下さい。30秒～1分弱くらい水につけてみて、指の腹や、やわらかい筆・ハケなどでやさしく洗います。ただし、あまり長時間水につけるのは避けましょう。

2) 弱くなっている写真は。

白黒写真は無理に水で洗うのではなく、エタノール（できれば無水）を使って拭いたほうがいいでしょう。

⇒必ずマスクと換気を！

カラー写真でもすでに表面が溶けだしている場合には、一度乾燥させてもまた溶けてしまいますので、あまり水につけない方がいいです。



洗ったら再び乾燥。今度は1点1点単位で。

4. デジタル化は？

1) デジタル化の重要性

なんとかのこした写真は次の段階としてデジタル化まで持っていけるとベストです。スキャナ等の設備があればご自分でも可能ですし、三脚をつけたスマホ (接写も可能なスマホ用三脚は百均でも売っています) で撮影するのも手だと思います。もちろん、博物館や写真屋さんに相談するのもアリです。

一定の時間が経過してアルバムのシートに写真表面のゼラチンがはがれてくっついてしまうケースなどでは、作業中にデジタル化でしか画像をのこせない場合もあります。

2) オリジナルの写真は？

傷んでしまっていても、もとの写真には独特の風合いがあります。特に古い写真には持ち主の方の想いもありますので、できれば捨てないでのこしておく方がいいと思います。

3) 台紙に貼りついている場合は？

写真館などで撮影された写真は台紙に貼られているものがあります。これらは無理にはがさないでそのまま開いて乾燥させ、台紙をぬらさないように拭きましょう。

⇒あまりにも汚れていたり、臭いがひどい場合は切断。

ガラス乾板 (昔のネガです) などの場合は、陰干しで乾燥させて専門家に依頼しましょう。

4) 写真以外のものは？

アルバムには写真以外の想い出のチケットや手紙なども挟まっています。これらは水につけるとインクがにじんでしまうことがあるので、できれば水洗いは避けましょう。ただし墨書は水で洗っても大丈夫です。

5. すてないように伝えて下さい。

1) 写真をなぜのこすのか？

水害にあうと色んなことがいやになって全てを捨ててしまおうとします。まずは片付けが優先されるのは当然でしょう。しかし、ひとまず災害の後片付けが落ち着いてまわりを見渡すと、自分の人生にかかわるものが何もなくなっている。

被災後3ヵ月から、喪失感・今後への不安などから心のダメージが大きくなると言います (内閣府 2012『被災者のこころのケア 都道府県対応ガイドライン』より)。

写真は、自分がこれまで歩んできた人生、家族や土地とのつながりを再確認させる大切なモノです。

なんとか写真をのこせたのならば、時間をかけて分類しなおしたり、自分でデジタル化する作業を行うことで、心の回復にもつながります。

2) 写真をのこすことを伝えて下さい。

被災した写真をのこすことを呼び掛けたり、のこすための方法は、SNS などでは盛んにみかけられますが、そうした情報を得られずに、やむなく廃棄してしまう方も多いと思います。そうした方々のために、積極的に<写真をすくう>リーダーとして活動されることを期待します。

発行日：平成 30 年 7 月 29 日　発行：宮崎歴史資料ネットワーク
〒 882-8508 宮崎県延岡市吉野町 1714-1 九州保健福祉大学博物館学研究室内
Tel:0982-23-5632 yamatosh@phoenix.ac.jp